第３章　文化的景観の保存及び活用に関する基本方針

１．課題

【主たる二つの課題】

五島市の文化的景観の保存・活用にあたっては、少子高齢化や人口減少に歯止めをかけるための二つの課題がある。一つは定住人口と交流人口の増加、もう一つは島の魅力を成す景観の担い手づくりである。過疎化に伴い集落を維持する担い手が不足している上、少子化の影響で子供の数が減り、景観を伝える次世代も不足している。また、第 1 次産業従事者も減少しており、生活・生業によって形成された居住地や耕作地、山林などの景観を今後どのように維持管理していくかは深刻な課題となっている。

【定住人口と交流人口の増加】

五島市は、人口減少阻止のために島外からの UI ターン、特に 40 歳未満の若い世代に焦点をあてた移住・定住の施策に力を入れている。また、二次離島である久賀島・奈留島は県内外からの離島留学生を受け入れており、児童・生徒だけではなく保護者もともに島へ移り住む家族留学の例もある。こうした取組により、市は令和元年度・令和２年度と二年連続で転入者が転出者を上回る社会増を達成した。現在も都市部からの移住の相談や問い合わせが数多く寄せられており、徐々にではあるが、若い世代に島での暮らしの魅力が伝わってきている。今後も民官の協力の下に、取組を発展させる。

また、五島市は、島の魅力を島外に発信し、多くの人びとに島へ足を運んでもらうための観光施策にも力を入れている。世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」や海外との交流の歴史に光をあてた日本遺産「国境の島～壱岐・対馬・五島」の取組、現在は五島列島における地質・自然の価値を伝えるため日本ジオパークネットワークへの加盟を目指しており、潜在的な魅力の磨き上げや、新たな魅力創出に取組んでいる。なかでも世界遺産への登録は、多くの観光客が久賀島や奈留島を訪れる契機となったが、旧五輪教会堂や江上天主堂の見学のみで日帰り客が多く、観光客が訪れることの利点を地域が感じにくくなっている。また、来訪者によるマナートラブルなど、観光客の増加がもたらす負の側面も指摘されている。交流人口の拡大を図りながら、来島者と住民とが島の魅力を持続的に享受できる仕組み作りが求められている。

【島の魅力ある景観の担い手づくり】

景観の維持管理も、地域コミュニティの維持と大きく関わる課題である。五島市の総合戦略では、安心・安全な暮らしのための生活基盤の整備や農林水産業の振興を大きな柱としてかかげているが、空き家の増加や耕作放棄地の拡大、五島名産の椿油を産出するツバキ林の荒廃などが、集落景観に関係して解決が求められている具体的な事項であり、地域コミュニティの再生を支援する方策を発展させることは喫緊の課題である。

また、五島市は、福江島南東部に浮体式洋上風力発電施設を設置し運用を行うなど、再生可能エネルギー産業を地域振興の柱の一つとして、積極的に施策を展開している。大規模な再生可能エネルギー施設の建設が、景観に大きな影響を与えて、 五島市の文化的景観の魅力を損ねることがないよう、事業者の理解と協力を求め、設置計画における調整を図る必要がある。

【基本方針のねらい】

文化的景観は、人が自然に働きかけながら生活・生業を発展させる中で、長い年月をかけてつくられてきたものである。地域の歴史や暮らし、人々の生き様が詰まった景観ともいえるものである。上記の課題を地域に馴染む方法で解決することで、この魅力あふれる景観を後世に残していけるよう、保存管理、整備活用、運営体制の 3 つの視点から保護の基本方針を設ける。また、これにより、文化的景観の継承が中長期的には市全体の経済の活性化や暮らしやすい環境の向上につながり、島内外に恩恵がいきわたることを目指す。

２．保存管理に関する基本方針

「五島列島における瀬戸を介した久賀島及び奈留島の集落景観」の保存管理に関する基本方針を下記に示す。

１）海と島が一体となった景観を保全する。

海は、地域の人々が漁場として大切にしてきたことに加え、そこから見る島の景勝は、日本列島形成からの歴史を伝える地形・地物や植物、建造物等から成り立っている五島市の貴重な財産であり、文化的景観の基礎を成す。このことから、海から見た陸域の眺望、とりわけ久賀島、奈留瀬戸、奈留島の一体的な眺望の保全に努める。この中には、山の稜線の保全を含む。

２）独特な地形と歴史が築きあげてきた集落の景観を保全する。

集落は、人々が歴史を通じて島の自然とどのように向かい合ってきたかをその立地や土地利用、建物配置、建造物等に伝えており、市の生活や生業の理解に欠くことのできない要素を多様に含んでいる。このことから、各集落の特徴に応じた土地利用の方針を立てると共に、五島市景観計画に即した開発を行うことで集落景観の保全に努める。また、島の生活や生業の特徴、歴史の特徴を伝える建造物等については「重要な構成要素」として、その継承に努める。

３）島の生活・生業を支える自然環境を保全する。

島の山林はほぼ全域が里山利用され、段々畑の開墾、薪や薪炭材としての伐採等によって時代を通じて景観を変えてきたと考えられる。一方で、斜面保護、魚付き林、水源涵養、共益的利用等により、保全が図られてきた一面もみせる。山林の利用にあたっては、歴史を通じた規制や利用（防風、当て木、信仰の対象等を含む）のあり方を参考にし、また、必要に応じてアセスメントを行う等し、自然環境の適切な保全に努める。河川についても同様であり、総じて島の豊かな自然環境の持続に努める。

３．整備活用に関する基本方針

１）景観を見つける。

文化的景観地区及びその周辺地域の調査を継続して行う。そこで見つけた特徴や特質を広く共有するとともに整備活用に活かす。

２）景観を磨く。

地域の文化的景観の魅力を高めるため、地域住民の理解と協力を得ながら、建造物や防風石垣、棚田や段々畑、特徴的な樹木等の修理や修景、整備を行い、景観を維持していく。また、島内での公共工事等については、文化的景観整備活用委員会の意見をもとに、周囲の景観に調和したものにする。

３）景観を感じる。

久賀島の中心地に伝統的家屋を修理し整備したガイダンス施設「久賀島交流センター」や奈留支所に併設の「奈留島世界遺産ガイダンスセンター」中心に文化的景観等の情報発信を積極的に行い、また、島内の散策ルートの設定や案内板等の設置を行い、訪れた人に五島市文化的景観の魅力がより伝わるようにする。

４）景観と生きる。

一次産業の振興を支援するため、椿油や久賀島で生産された久賀米、奈留島で水揚げされた海産物などのブランド化された産品を活用するとともに、新たな産品のブランド化を支援し、地域住民の郷土愛や文化的景観を構成しているという意識の醸成に努める。

５）景観で繋がる。

文化的景観を核として、行政機関、民間企業、地域コミュニティの連携がさらに強化されるよう情報を集めるとともに、地域の魅力となる資源の公開・活用、情報発信に積極的に取組む。

４．運営体制に関する基本方針

１）文化的景観所担当課は景観担当課等の関係部局や大学等の関係機関と協力体制を構築し、緊密に連携を図る。また専門家・地域住民・行政などで構成する委員会を設置し、文化的景観の状況を把握し、保存や整備活用等に関わる重要事項について検討する。

２）文化的景観を維持するために必要な基準や指針を設定する。また整備後の自然環境や景観に対する影響を評価し、その成果を計画の運用や見直しに活かす。

３）自治会やまちづくり協議会等による住民主体のまちづくりや景観保全の取組、祭礼・年中行事などの文化・伝統を継承する取組等の支援を行う。

４）島外出身者や都市部に住む人々が積極的に文化的景観の保存や整備活用に関わることができる仕組みをつくる。